

旧秋田銀行本店

重要文化財

設計:山口直昭/星野男三郎

竣工:明治45年(1912)

住所:秋田県秋田市大町3丁目3-21

交通:JR秋田駅徒歩15分



明治45年(1912)、秋田銀行本店として建てられた。

老朽化のため一時は解体も検討されたが、昭和56年(1981)秋田市制90周年と秋田銀行100周年が重なったのを機に秋田市に寄贈され、復旧工事を経て、昭和60年(1985)「赤れんが郷土館」として生まれ変わった。

設計者は、長らく県土木部技官の牧彦七とされていたが、本格的調査の結果 東京帝国大学建築学科出身の元秋田県技師・山口直昭が外部を、同・星野男三郎が内部の設計を請け負ったことが上棟式の棟札などで確認された。1階部分は白タイルに黒帯、2階部分は赤煉瓦に黒帯を配するという独特の意匠である。そして、正面両端にタレット(隅小塔)がついているのも大きな特徴である。

内部もよく保存されており、バロック様式を取り入れた旧営業室のカウンター・ロビー、随所に施された漆喰や木彫りの装飾、旧貴賓室など見所が多い。

平成6年(1994)、国の重要文化財に指定され、平成14年(2002)、90周年を迎えた。

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。

雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。